

令和3年度 教育事業（地域力向上事業） ふれあいキャンプ（12年目）

1 事業概要

不登校及びひきこもりがちな小学生・中学生とその保護者を対象に1泊2日の事業を企画した。1日目は紙すき体験や保護者と講師との情報交換、2日目は、ボルダリングやクライミング、野外炊飯を行った。体験活動を通して、社会性や自立への力の育成を図った。

2 事業の目的（ねらい）

参加者同士の交流や共同生活及び体験活動を通して、社会性や自立への力を育てる。

3 企画のポイント

県内の適応指導教室に開催要項を配付して参加者を募るとともに、不登校及びひきこもりがちな小学生・中学生が少しでも参加しやすくするための手立てとして、次の4つを試みた。

1つ目は、週末に開催することで、参加者は学校や適応指導教室への登校を気にせず参加できるようになると考えた。2つ目は、紙すき、ボルダリングやクライミング、野外炊飯等の体験活動を取り入れることで、参加してみようとする児童や生徒が増えるのではないかと考えた。3つ目は、対象となる小学生・中学生の兄弟姉妹も参加可能とするとともに、日程の一部だけの参加も可能とした。4つ目は、夜の交流時間に保護者と講師の情報交換を行うことで、保護者の方にも有意義な時間を過ごしていただけたと考えた。

- | | |
|---------------|---|
| 4 主催 | 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家 |
| 5 後援 | 愛媛県教育委員会、大洲市教育委員会 |
| 6 期日 | 令和3年11月13日（土）～11月14日（日）1泊2日 |
| 7 場所 | 国立大洲青少年交流の家 |
| 8 対象 | 不登校及びひきこもりがちな小学生・中学生とその保護者 |
| 9 参加人数 | 4名（小学生2名、中学生1名、保護者1名） |
| 10 参加費 | 中学生以上2,250円、小学生2,200円 |
| 11 講師 | 国立大洲青少年交流の家研修指導員 青山 優歩氏（紙すき体験）
精神保健福祉士・公認心理師・臨床心理士 徳田 美保氏（保護者の情報交換会） |

12 日程

< 1日目 >

- 13:30 開会行事
- 14:00 アイスブレイク・めあてづくり
- 15:00 紙すき体験
- 19:30 交流時間（小学生・中学生はカブラブロック、保護者は情報交換）
- 21:00 自由時間・就寝準備

< 2日目 >

- 9:00 ボルダリング・クライミング
- 10:30 野外炊飯
- 12:30 昼食（ピザ）
- 14:00 閉会行事

令和3年度 国立大洲青少年交流の家 教育事業

ふれあいキャンプ 開催要項

1 **ねらい** 参加者同士の交流や共同生活及び体験活動を通して、社会性や自立への力を育てる。

2 **主催** 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家

3 **後援** 愛媛県教育委員会（予定）、大洲市教育委員会

4 **責任者** 国立大洲青少年交流の家研修指導員 青山 優歩氏（紙すき体験）
精神保健福祉士・公認心理師・臨床心理士 徳田 美保氏（保護者の情報交換会 講師）

5 **期日** 令和3年11月13日（土）～11月14日（日）【1泊2日】

6 **場所** 国立大洲青少年交流の家

7 **対象** 不登校及びひきこもりがちな小学生・中学生とその保護者

8 **参加人数** 20名程度

9 **お申し込み料** 2,250円（中学生以上） 2,200円（小学生）

	1日目			2日目			合計
	夕食	朝食	昼食	保険	シャツ	雑費	
小学生	660	420	590	211	300	19	2,200
中学生以上	680	430	590	211	300	39	2,250

10 **準備物** 2日分のマスク、水分、体験活動に適した服装（防寒対策）、運動靴、運動服、タオル、洗面用具、保護証（コピー可）、筆記用具、*お子様のゲーム機・スマホ等の持ち込みは不可

11 **日程・内容**

<1日目>

- 13:00 開会開始
- 13:30 開会行事
- 14:00 アイスブレイク・めあてづくり
- 15:00 紙すき体験「紙すってどのようにして作られるのかな？」
- 17:30 夕食
- 18:30 入浴
- 19:30 交流時間（児童・生徒はカブラブロック、保護者は徳田 美保氏と情報交換会）
- 21:00 自由時間・就寝準備
- 22:00 就寝

<2日目>

- 6:30 起床
- 7:00 朝食
- 7:40 掃除
- 8:40 遊歩会
- 9:00 ボルダリング「高さ3mの壁登りに挑戦してみよう！」
- 10:30 野外炊飯「親子でおいしいピザを作ろう！」
- 12:30 昼食（ピザ）
- 14:00 閉会行事
- 14:30 解散

13 活動内容

【1日目】

「紙すき体験」 講師：青山 優歩 氏

紙すき体験では、まず和紙の原料や産地等について学び、和紙の原料を処理する体験を行った。その後、バージンパルプを使って紙すきを行い、オリジナルのはがき作りに取り組んだ。時間と労力をかけて和紙が作られていることを実感することができた。

「交流時間」 講師：徳田 美保 氏

子供達はカプラブロック、保護者は精神保健福祉士・公認心理師・臨床心理士である徳田氏との情報交換を行った。1時間半、子供達はカプラブロックに夢中になって取り組み、保護者の方は徳田氏に悩みを相談し、有意義な時間を過ごすことができたと思われる。

【2日目】

「ボルダリング・クライミング」

皆が積極的に挑戦する姿が見られた。クライミングでは、小学2年生を除く全員が8mを登ることができ、達成感を味わうことができた。

「野外炊飯」「昼食（ピザ）」

野外炊飯では、手際よく準備や片付けを行い、ピザ作りに取り組んだ。薪の量を相談しながら火加減を調節し、美味しいピザを作ることができた。

14 参加者の声

参加者の事後アンケート結果を以下に示す。

* 満足：100% * やや満足：0% * やや不満：0% * 不満：0%

- ふれあいキャンプに参加して、家族の絆が深まった気がする。
- 紙すき体験は、原料から和紙にする作業が大変だったが体験できてよかった。
- クライミングで登り切ることができてうれしかったし、登り切った時の達成感は最高だった。

15 事業の成果

不登校及びひきこもりがちな子供達だけでなく、その保護者にも視点を当てて、「交流時間」（小学生・中学生はカプラブロック、保護者は情報交換）をプログラムに取り入れた。保護者は時間いっぱい徳田氏と情報交換を行い、最後は笑顔で子供達のもとに戻られた。その表情から、保護者の方にも有意義な時間を過ごしていただけたと考える。また、クライミングでは、保護者が頑張る姿を見て、中学1年生の生徒も家族の声援に押されながら8mの壁を登り切ることができた。子供達のやり終えた時の満足そうな表情や、「怖かったけど、最後まで登ることができてよかった。」といった感想から、自立への力の育成の一助になったと考える。

16 事業の課題

不登校および引きこもりがちな児童生徒にとって、事業に参加することは相当のエネルギーが必要である。参加したいと思えるプログラムの企画が課題の一つである。また、今年度は、愛媛県及び市町の教育委員会、県内の適応指導教室に開催要項を配付して参加を募ったが、直前のキャンセルもあり、1家族4名の参加にとどまった。より多くの参加対象者に届く広報の在り方、参加者確保につながる方策について、検討していく必要がある。

（担当：企画指導専門職 徳田 義実）